

《共通科目》

授業科目名	グローバルヘルス <i>Global Health</i>		担当教員	小川 里美	
開講年次	1年前期	セメスター	1	時間数(単位数)	15(1)
必修選択	選択 (保健・看護コース必修)	授業形態	講義	使用教室	
授業の目的	グローバル化に伴い多様化・複雑化する健康課題について学際的な視点で分析し、看護の役割について考察する。				
到達目標	1. 健康にかかわる要因について説明することができる 2. 開発と健康課題における赤十字の活動について理解することができる 3. 国内外の健康課題と看護介入について考察することができる				
授業計画	健康に関与する要因を概観し、健康との関連をディスカッションする 1回 グローバリゼーションと健康・赤十字 グローバリゼーションに伴う健康課題と赤十字の活動を概観する 2回 健康と開発 MDG から SDG へ - 開発概念と健康の関係を概観する 3回 健康課題と看護(1) 国内外の健康問題で関心のあるものについて調べ、テーマを設定し、発表する 4回 健康課題と看護(2) 5回 健康課題と看護(3) 6回 健康課題と看護(4) 7回 健康課題と看護(5) 8回 グローバルヘルスとわが国の国際保健医療協力				
学習方法	毎回のテーマについて、文献を活用し事前学習をして講義に臨んでください。				
オフィスアワー	金曜日の昼休み、もしくはメールで事前に連絡をとってください。 s-ogawa@jrckicn.ac.jp (小川)				
テキスト	特に指定しない				
参考文献	Basch, P.: Textbook of International Health (2nd Ed) . New York, Oxford University Press, 1999. McCracken, K., Phillips, D.: Global Health: An Introduction to Current and Future Trends, New York, Routledge, 2012. Purnell, L.: Transcultural Health Care: A Culturally Competent Approach. Philadelphia, F.A. Davis Company, 2012. アマルティア・セン：不平等の再検討。東京，岩波書店，1999。 稲賀繁美編：異文化理解の倫理にむけて。名古屋，名古屋大学出版会，2000。 久間圭子：医療の比較文化論。京都，世界思想社，2003。				
評価方法	授業への参加度(10%) プレゼンテーション(50%) レポート(40%)				